

## 顎関節症、咬合について

講師：西川洋次先生

日時：平成23年6月19日（日）

場所：CISJ特別講演会にて



松田一弘（三重県）

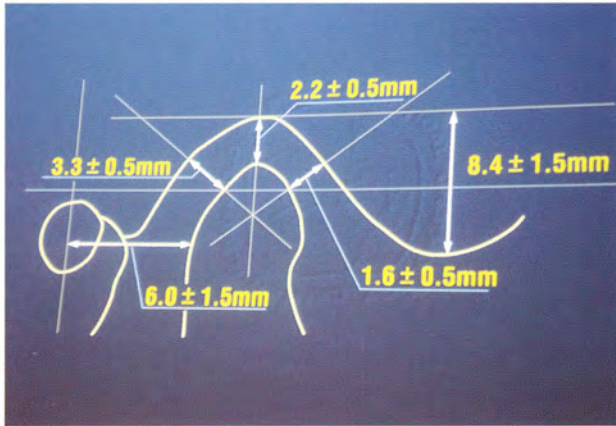
神奈川県で開業されている西川先生と井上先生の講演を受けてきました。実はわたしは以前に西川先生と井上先生とはお会いしたことがあり、日本でお会いするのは始めてでした。ちょうど、震災が起こったときでしたが、ICOI主催のスティングマン教授の講演を受けにベトナムへ行ったとき、お会いしました。学び続けている姿勢に尊敬しています。

講演はとても興味深く、基本的な咬合用語から咬合様式やアンテリアーガイダンスの診断など細部にわたり、数値としても表してくださり、基本をととても大切にされていてそのうえで確実な診断と治療を細かなところまでこだわり、行っているのだと伝わってきました。わたしは、自分自身、日ごろの臨床でこんなものだろうと感覚的に行っている部分が多いのではないかなと戒めになりました。

大きな内容は、顎関節症の治療についてでしたが、その中でもトリガーポイントというものを始めて聞きました。トリガーポイントとは筋中にたまった乳酸の塊が痛みをおこすポイントになっているとい



うもので、そのトリガーを無くすことで顎関節症における痛みを緩和することをトリガーブロックといい、実際の映像も見せてもらい、驚きました。患者様の顔面、頬部あたりをちょうど神経ブロックするように咬筋や側頭筋のあたりに麻酔していました。



普段、顔の表面から麻酔をすることは無いのでいきなり実践してみるのなかなか難しいですが、日ごろの臨床の参考にさせて頂きたいと思いました。また、患者様への細かなところまで聞いたアンケート形式の問診表、患者様の訴えをよく聞いていてそういったところも見習わなくてはならないと勉強させていただきました。

インプラント治療を行うにあたり、顎関節症、顎位の問題は予後に大きな影響を及ぼすと思いますので、より大きな視点で診療を行っていくととてもよい機会になりました。これからも、総合診療を心がけ、講義の中でありましたが、治療によって患者様の”適応”をこえて、”代償”が起こらないようにしていきたいです。このような貴重な講演に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

